

令和6年度病害虫発生予報第6号（10月予報）概要表

令和6年9月26日
埼玉県病害虫防除所

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>1 大豆</u>		
(1) ベと病		多
(2) マメシンクイガ		並
(3) シロイチモジマダラメイガ		並
(4) 吸実性カメムシ類		並
<u>2 なし</u>		
(1) うどんこ病		やや多
(2) 黒星病の防除対策	/	/
<u>3 なす（夏秋栽培）</u>		
(1) うどんこ病		並
(2) オオタバコガ		多
(3) ハダニ類		並
(4) アザミウマ類		多
<u>4 きゅうり（夏秋栽培）</u>		
(1) ベと病		並
(2) うどんこ病		並
(3) 退緑黄化病		多
(4) 黄化えそ病		やや多
(5) コナジラミ類		やや多
(6) アザミウマ類		やや多
<u>5 ブロッコリー</u>		
(1) ベと病		並
(2) ハスモンヨトウ		並
(3) シロイチモジヨトウ		多

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並※」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

作物名・病害虫名	予報内容	
	発生時期	発生量
<u>6 ねぎ (秋冬栽培)</u>		
(1) さび病		並
(2) 黒斑病		やや多
(3) ベと病		並
(4) 軟腐病		並
(5) シロイチモジヨトウ		多
(6) ネギアザミウマ		やや多
(7) ネギハモグリバエ		並
<u>7 いちご (本ぼ)</u>		
(1) 炭疽病		並
(2) ハダニ類		並
<u>8 茶</u>		
(1) チャハマキ (第4世代幼虫)		並
(2) チャノコカクモンハマキ (第4世代幼虫)		並
(3) チャノホソガ (第4世代幼虫)		並
(4) カンザワハダニ		並
(5) ツマグロアオカスミカメ		やや少

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ 並*： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和 6 年度病虫害発生予報第 6 号（10 月予報）

令和 6 年 9 月 26 日
埼玉県病虫害防除所

1 大豆

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	多	○9 月中旬の発生量：多 □県予察ほ場の発生量：やや少 （－） □気象予報：気温は高い、降水量は 平年並か多い（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・遅まきの在来系統や「里のほほえみ」は、10 月上旬頃まで感染しやすい時期が継続するため、特に注意する。
マメ シンクイガ	並	○9 月中旬の発生量：並 □県予察ほ場の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は 平年並か多い（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・9 月中旬頃に成虫が見られたほ場では、10 月上旬頃までに薬剤による防除を実施する。
シロイチモジ マダラメイガ	並	○9 月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は 平年並か多い（＋）	・遅まきでは子実肥大初期～中期（開花期 20～40 日後）を目安に、薬剤による防除 を実施する。
吸実性 カメムシ類	並	○9 月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の発生量：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は 平年並か多い（＋）	・9 月下旬以降はミナミアオカメムシが主 体となるため、「病虫害診断のポイントと 防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実 施する。 ・ミナミアオカメムシは莢が黄化しても吸汁 するため、多発している場合は収穫前日数 に注意しながら薬剤による防除を実施す る。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・播種時期により生育状況が異なるため、ほ場を注意深く観察し、発生を確認したら速やかに防除対策を実施する。 			

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（＋）は助長または促進、（－）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

2 なし

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
うどんこ病	やや多	○9月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	
黒星病			<ul style="list-style-type: none"> ・「病害虫診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・葉裏の秋型病斑は翌年の一次感染源となるため、10月下旬から11月下旬まで（園の80%程度が落葉するまで）に予防剤を散布する。 ・うどんこ病の多発により早期落葉の可能性がある場合には早めに防除する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐性菌の発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 ・病原菌は、落葉に付着して越冬するため、落葉を園外に持ち出し処分するか、集めてロータリーで破碎し、土中に埋める。 			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

3 なす（夏秋栽培）

病害虫名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
うどんこ病	並	○9月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	
オオタバコガ	多	○9月中旬の発生量：多 □フェロモントラップによる誘殺数：やや多（+） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（+）	<ul style="list-style-type: none"> ・「病害虫診断のポイントと防除対策」（参照 1）を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（参照 2）を参考に、幼虫の発生初期に薬剤による防除を実施する。
ハダニ類	並	○9月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	
アザミウマ類	多	○9月中旬の発生量：多 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。 			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrap.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多**」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

4 きゅうり（夏秋栽培）

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	並	○9月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。 ・ハウス内を多湿にしないよう、温湿度管理に注意する。
うどんこ病	並	○9月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（+）	・やや乾燥した条件により助長されるため、ハウス内の温湿度管理に注意する。
退緑黄化病	多	○9月中旬の発生量：多 □10月のコナジラミ類の予想発生量：やや多（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
黄化えそ病	やや多	○9月中旬の発生量：並 □10月のアザミウマ類の予想発生量：やや多（+）	
コナジラミ類	やや多	○9月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（+）	・ハウスに防虫ネットを張るなど、外部からの侵入防止対策を徹底する。 ・本虫は退緑黄化病を媒介するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
アザミウマ類	やや多	○9月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い（+）	・ハウスに防虫ネットを張るなど、外部からの侵入防止対策を徹底する。 ・本虫は黄化えそ病を媒介するため、「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照1 ）を参考に防除対策を実施する。
【共通注意事項】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。			

参照1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多*****：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

5 ブロッコリー

病害虫名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
べと病	並	○9月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（+）	・「病害虫診断のポイントと防除対策」（ 参照 1 ）を参考に防除対策を実施する。
ハスモン ヨトウ	並	○9月中旬の発生量：散見 □フェロモントラップによる誘殺数：並（±） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（+）	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照 2 ）を参考に、幼虫の若齢期に薬剤散布を行う。
シロイチモジ ヨトウ	多	○9月中旬の発生量：散見 □フェロモントラップによる誘殺数：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（+）	・8月8日に発表した「注意報第7号」（ 参照 4 ）を参考に適期防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」（ 参照 2 ）を参考に、幼虫の若齢期に薬剤散布を行う。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照 1：病害虫診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrapp.html>

参照 4：注意報第 7 号「ネギ・ブロッコリー・ダイズ、シロイチモジヨトウ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r6-7.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病害虫について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、（+）は助長または促進、（-）は抑制、（±）は傾向維持を意味します。

6 ねぎ（秋冬栽培）

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
さび病	並	○9月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	・肥切れは発生を助長するため適切な施肥管理に努める。
黒斑病	やや多	○9月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（+）	
べと病	並	○9月中旬の発生量：散見 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	・多肥栽培では、発生が助長されるため注意する。
軟腐病	並	○9月中旬の発生量：やや少 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（+）	・多肥栽培では、発生が助長されるため注意する。 ・明渠等を確認し地表水の早期排水を行う。
シロイチモジヨトウ	多	○9月中旬の発生量：並 □フェロモントラップによる誘殺数：多（+） □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（+）	・8月8日に発表した「注意報第7号」(参照4)を参考に適期防除を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に、幼虫の発生初期に薬剤散布を行う。
ネギアザミウマ	やや多	○9月中旬の発生量：やや多 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。
ネギハモグリバエ	並	○9月中旬の発生量：並 □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	

【共通注意事項】

- ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。
- ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照 2：フェロモントラップ等調査データ

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrap.html>

参照 3：令和 6 年度病虫害発生予察注意報第 7 号「ネギ・ブロッコリー・ダイズ、シロイチモジヨトウ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/chuiho-r6-7.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・**並***：予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・**多*****：調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

7 いちご（本ぼ）

病虫害名	発生 予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
炭疽病	並	○9月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（＋）	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・育苗中に発病した苗およびその周辺の苗は定植しない。 ・被害株は抜き取って適切に処分する。
ハダニ類	並	○9月中旬の発生量：－ □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い（±）	・育苗中に発生が見られたほ場では、定植前の苗の防除を徹底して、本ぼへ持ち込まないようにする。 ・高温時は増殖が速いため、こまめに発生状況を確認する。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を避ける。 			

参照 1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去 10 年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(＋)は助長または促進、(－)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

8 茶

病虫害名	発生予想 (発生量)	予報の根拠	防除上注意すべき事項
チャハマキ (第4世代幼虫)	並	○9月中旬の発生量：やや少 □フェロモントラップによる第3世代成虫の誘殺数：並(±) □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い(+)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。
チャノコカクモンハマキ (第4世代幼虫)	並	○9月中旬の発生量：無 □県予察ほ場での幼虫数：並(±) □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い(+)	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。
チャノホソガ (第4世代幼虫)	並	○9月中旬の発生量：やや少 □フェロモントラップによる第3世代成虫の誘殺数：やや少(-) □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い(+)	・防除所発表の「フェロモントラップ等調査データ」(参照2)を参考に若齢幼虫を対象として防除を実施する。
カンザワハダニ	並	○9月中旬の発生量：やや少 □県予察ほ場の発生量：並(±) □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い(±)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・急増することがあるため発生状況に注意する。 ・少雨で乾燥した場合は発生が助長されるため、発生状況に注意する。
ツマグロアオカスミカメ	やや少	○9月中旬の発生量：無 □県予察ほ場の発生量：並(±) □気象予報：気温は高い、降水量は平年並か多い(±)	・「病虫害診断のポイントと防除対策」(参照1)を参考に防除対策を実施する。 ・常発園や多発した園では、産卵のために成虫が茶園に再飛来する10~11月に防除を行う。越冬卵密度が低下し、翌年一番茶芽の被害軽減効果がある。
<p>【共通注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤による防除を実施する。 ・薬剤防除の際は、耐性菌・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。 			

参照1：病虫害診断のポイントと防除対策 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

参照2：フェロモントラップ等調査データ <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/pheromonetrap.html>

表の見方について

- ・予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・並*：予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・多***：調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、
周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正
な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ・ **並***： 予報月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並*」と示しています。
- ・ **多*****： 調査月における発生が過去10年間で確認されていない病虫害について、今回の調査時に発生があった場合、「多***」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 予報の根拠の○は現在の発生状況、■は今後の発生時期、□は今後の発生量に影響する要因を示し、(+)は助長または促進、(-)は抑制、(±)は傾向維持を意味します。

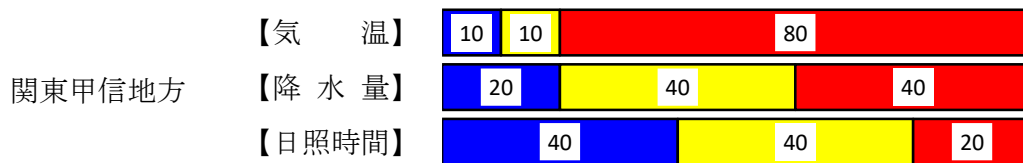
(参考) 気象概要 1 か月予報 (令和6年9月26日発表)

出典：気象庁ホームページ (https://www.jma.go.jp/longfcst/103_00.html)

<予報のポイント>

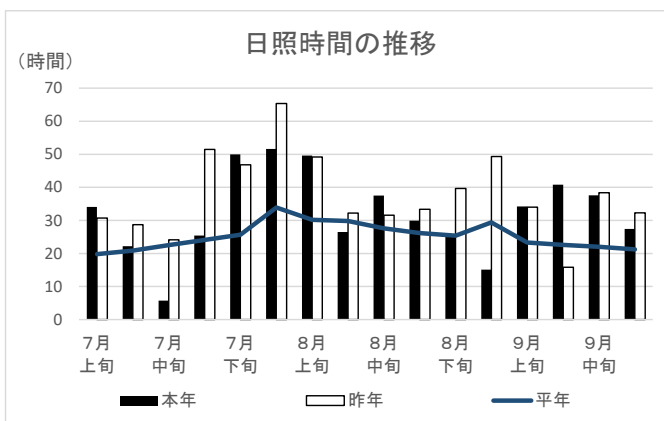
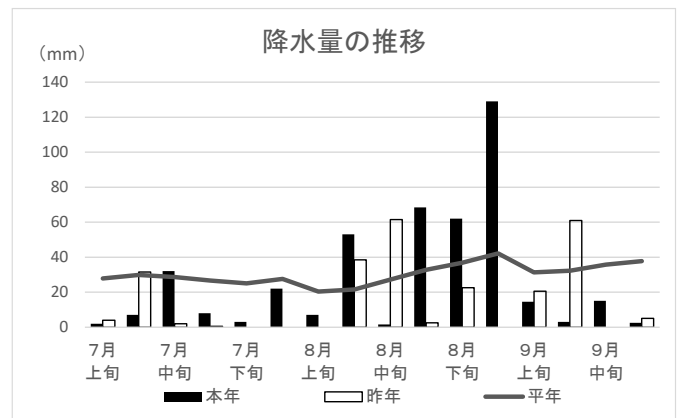
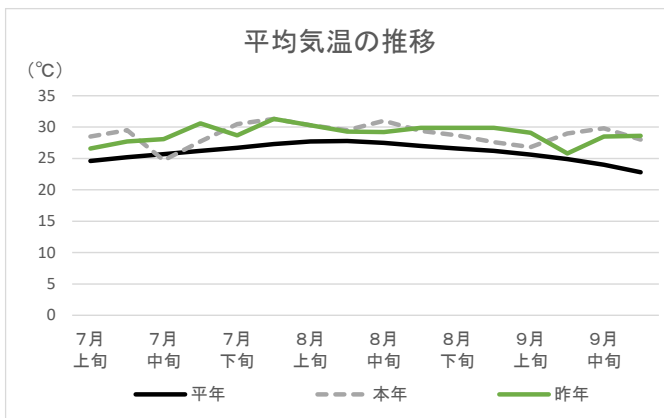
- ・ 向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。期間の前半は、かなり高くなる見込みです。
- ・ 低気圧や秋雨前線、湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例： ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

(参考資料) 過去の平均気温、降水量、日照時間 (熊谷)



問い合わせ先
 埼玉県病虫害防除所
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784
 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663
 E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>